

乙女高原が好き！ 2502 号

26 回目の遊歩道づくり

～遊歩道づくり 事前準備～

5月7日（水）記事：植原 彰

夜明けに降っていた雨も上がり、とてもいい天気になりました。草原ではようやくマメザクラ（フジザクラ）が咲き始め、シラカバの芽吹きの新緑が遠くからでも見えるようになりました。草原中央のシラカバの木のすぐとなりダケカンバです。ダケカンバはクリーム色の肌なので、すぐ分かります。シラカバは新緑が目まぶしいくらいなのに、ダケカンバはまだ枯れ木。それだけダケカンバの方が高い標高に適応しているのでしょう。そんな木々の個性がよく見えるのが、芽吹きの季節。そう、「今」です。いやー、今日来てよかった!!

今日の作業は山梨県・山梨市・乙女高原ファンクラブ協働です。それぞれ3人5人8人、計16人が集まって、今度の日曜に迫った「遊歩道づくり」の準備をしました。まず、全体で打ち合わせ。自己紹介の後、仕事内容の確認をし、係に分かれてそれぞれの準備作業をしました。行った作業は、こんな感じ。

- ・草原内を手分けして歩き、交換が必要な杭の根元に竹串を差して目印とした。冬の間にゆるんだ杭はかけや（巨大ハンマー）でたたいて、グラグラしないようにした。
- ・倉庫のロープ・杭の点検をし、新たに購入が必要かどうか確認した。
- ・去年の秋から半年使っていないロッジの中、外トイレをきれいにした。
- ・トイレに不具合があったので、修理した。
- ・シカ柵を点検し、緩んだ杭・網を直した。

作業は午前中に終わりました。今年、新たに必要な杭は70本でした。杭交換が必要な個所には竹串が刺してありますので、5/11までくれぐれも抜かないように。また、新たな杭をロッジ庭に置いておきますが、これも動かさないようお願いします。

作業終了後、ファンクラブ・スタッフでお昼を食べました。食べながら、午前中の作業の振り返りをしました。「草原内の外来種（メマツヨイグサ）が目立っていたね」「早めに抜いた方がよくないか」という意見があり、あくまで実験的ですが、午後から有志でメマツヨイグサの駆除をすることにしました。やってみると、夏に比べて草株が圧倒的に小さいし、土も柔らかいので、とても効率的に退治できました。みんなでコンビニ袋（大）4つ分、退治しました。



～遊歩道づくり 本番当日～

5月11日（日） 記事：植田 幹夫

5/11（日）五月晴れの下、第26回「遊歩道づくり」を67名の参加者で実施しました。

早めにグリーンロッジに到着したので、集合迄の時間を利用して草原のコースを通してヨモギの頭へ上りました。草原は冬枯れの色のままですが周辺のシラカバや唐松の芽吹きの新緑が鮮やかです。草原の中には黄色いキジムシロとミツバツグリが咲き出しています。雪が大分少なくなった富士山が看板通り綺麗に見えます。森林コースではタチツボスミレやエイザンスミレが咲き、マイヅルソウに蕾がついています。草原の中のマメザクラが満開です。

9時からスタッフ打合せを行い、3つのコースの担当スタッフを確認しました。私の担当はツツジコースで平らなところ。リーダーは井上さんとスタッフ3人。開会式までに広場に打ってある杭でロープを杭に巻く練習をしました。配布資料のロープを張る



田丸グリーン基金様から寄付金贈呈

方向を下にして2回巻き付けるイラストは分かり易かったです。

9時30分から開会式を行い、山梨市高木市長と峡東林務事務所金丸所長からご挨拶を頂き、乙女高原ファンクラブ植原代表から”安全に作業を”の注意がありました。田丸グリーン基金様からファンクラブ代表世話人の角田さんへ寄付金の贈呈がありました。その後3つのコースに分かれて作業場所に出発しました。

担当したツツジコースはロータリークラブからの参加者15名程。リーダー井上さんの采配で、三か所に分かれて作業をスタートしました。杭の追加打ち込みで、交換が必要な赤い竹串表示の杭以外で2、3本破損し、新たに杭を打ち直しましたので、交換用の新規の杭が足りなくなっていました。またロープ張りの終点の杭の近くに余ったロープを丸めておきましたが、折り返して二重に張れば格好よく収まったと後から気づきました。ロータリークラブの皆さんが手際よく新規の杭打ちとロープ張りの作業を行い、45分程でツツジコースの作業が終了し、3コースで一番先にロッジに戻りました。

3つのコース共に予定より早く作業が終了したので、1時間早く閉会式を実施しました。ファンクラブ代表世話人の角田さんから御礼の挨拶、三枝さんからファンクラブ入会の案内やイベントの紹介があり、最後に所属団体別の参加者を紹介して終了しました。閉会式の後にはテントやテーブルなどの備品を撤収し、看板やロープを倉庫に収納して来場者を迎える準備が完了しました。

乙女高原に今年も多くの人がいらっしゃることを期待します。

午後はファンクラブの有志で、張ったロープに標識取り付け、外来種のメマツヨイグサの除去、草原内に侵入したシラカバの伐採を行いました。メマツヨイグサは地上部が高さ5cm位ですが、地下には長さ30cm以上の根が数本伸びていて、移植ごてを使って掘り起こしてもなかなか根の先端まで取れません。

所々に咲いているフデリンドウやキジムシロやミツバツチグリの花、ヤナギランやノコギリソウの若い芽などを観察しながら、メマツヨイグサを抜き取りました。1時間程の作業でレジ袋4個〔重さ5kg位〕が除去できました。帰り道ではサンリンソウやミヤマスマレ、ツボスマレやサクラスマレを観察でき、色々な花に会えた一日でした。



ヤマアカガエルの産卵調査

～産卵調査 Ⅰ回目～

4月5日(土) 記事：井上 敬子

4月の観察交流会は4月5日でした。牧丘の道の駅に行くと、角田さん、植原さん、毛利さんの3人がいました。が、角田さんと植原さんは都合があって行けないとの事、毛利さんと二人で乙女高原に行くことになりました。この日はヤマアカガエルの調査日でもあります。調査票を植原さんから預かり、角田さんからはいちごの差し入れをいただいて、出発しました。前日、前々日は冷たい雨が降ったので、乙女高原は積雪があると思って、長靴を持参しましたが、雪はほとんどないとのこと。林道も雪はほぼありませんでした。

最初の観察ポイントは山の神入り口、ここは例年ヒナスマレがたくさん咲いているのですが、今年は寒い日が続いていたこともあり、スマレは見当たりません。ないなあと思いつつ、歩いてみると林の入り口に小さなかわいらしいヒナスマレが見つかりました。2株ありました。奥の岩のところには咲き始めの小さな小さなハナネコノメ、イワネコノメもありました。そして、伸び始めて花も数輪咲いたハシリドコロも。春は確実にやってきていました。

次にカエル池と呼んでいる水たまりの所で停車。少し水がたまっていて、ヤマアカガエルの卵塊が5腹ありました。ここも例年スマレが見られるのですが、全くありません。葉が出たばかり。キブシのクリーム色の小さな花はいくつも枝にぶらさがって咲いています。小鳥のさえずりも聞こえました。

次はカツラの大木があるところ。カツラは赤い芽が出始めたばかり。数日後には赤く美しい新緑が見られることでしょう。道路からカツラの木の下に降りてみました。沢沿いの岩の上には赤い葯が美しいハナネコノメと黄色い葯のツルネコノメが咲き始めていました。ここも例年ならスマレなど春の花が見られるのですが、芽や葉が見られただけでした。



ハナネコノメ

乙女湖が見えるところで車を停車。乙女湖の氷はすっかり解けてエメラルドグリーンの水が美しい。日陰の斜面に雪が少し残って、ひび割れていました。こんなところでも春の訪れが感じられます。でも遠く見える金峰山は雪で真白。昨日の雨は山では雪だったのですね。

焼山峠の湿地も見てみました。例年ここもヤマアカガエルの卵が観察できるのですが薄氷がはっていたり、奥の湿地は雪も積もっていたりで、ヤマアカガエルの卵は見られませんでした。フィッフィッと甲高い鳴き声。ゴジュウカラが姿を見せてくれました。シジュウカラもいました。

木道湿地でヤマアカガエルの産卵調査です。湿地の外回りで観察後、湿地の中に入ってもみましたが、卵は見当たりません。寒いので、まだ産卵はしていないようです。流れの中に金粉のようなものを毛利さんが見つけました。金ではないでしょうが、何でしょうか。

乙女高原に到着。まず産卵調査をしました。谷内坊主の湿地を探しましたが、卵はなし。でもメタリックブルーの美しいヒメツチハンミョウが姿を見せてくれました。冬には段状に高く発達していた霜柱もなくなっていました。これも春のきざしです。奥の湿地には雪が積もっていました。卵はたぶんないだろうと思いながら、近づくとヤマアカガエルの鳴き声がします。これは産卵の期待が持てます。しばらく鳴き声をじっとして聞いていましたが、湿地に入っていくと、鳴き声はピタッとやんでしまいました。卵を探しましたがありません。残念。でも鳴き声が聞こえていたので、人がいなくなったら産卵するのではないのでしょうか。

ロッジ前に行くと、もう 12 時。ベンチで昼食にしました。看板の温度計は 7℃。空気は冷たいですが、日差しは温かいです。テーブルの端に黒と茶色の毛虫がいました。暖かくなって出てきたのかな。2 人でおしゃべりしながら食べていると、荒川林道方面から車がきました。4 月末に林道を開けるための調査に甲府から来たという二人連れでした。林道を開けるための準備が始まっているのですね。

昼食後、草原に入って観察。鹿柵の扉も冬は霜で持ち上がって開けにくかったのが、そんなこともなくなりました。草原は日陰に雪が少し残っているだけで枯れ野原。キジムシロの葉が出始めているくらいです。枯れたモミの大木の下にはいろいろな樹木が伸びてきています。これから生存競争でしょう。バンザイをした形のオオカメノキの冬芽もだいぶ伸びてきていました。

展望台まで登ってみると、真白な富士山が春霞のようなぼんやりした空に浮かんでいました。ヨモギ頭まで登るとダケカンバが林立しているのがよく見えます。樹間に真白な金峰山が見えましたが、南アルプスや八ヶ岳は雲に隠れてしまいました。午後になって、空に雲が広がり始めました。

草原のコース上部ではコガラやシジュウカラのペアがレンゲツツジの枝などに止まったりして姿をよく見せてくれました。暖かくなってきて、野鳥たちも恋の季節ですね。草原のコースからツツジのコースをまわりました。ツツジのコースの林沿いはまだ雪が 10cm くらい積もっていました。出口近くまで来るとモグラ塚がたくさんあります。2 月に見たときよりも数が増えているようです。枯草の中に黒い土の小山があちこちにできていました。草原での観察を終了。

帰りの林道でマンサクの花を観察。中心部が赤く、黄色く細長い花びらが伸びています。赤いのが目立ちますが、萼でしょうか。ダンコウバイやキブシも咲いていました。

下界は桜や菜の花が満開、桃の花も咲いてきて春爛漫ですが、高原はまだ春浅しという感じです。春のきざしがいろいろ観察できて、楽しい観察会でした。



～産卵調査 2 回目～

4 月 20 日 (日)

記事：加藤 由美

4 月 20 日 (日) 天気は曇り。私的には、待望の自然観察・ヤマアカガエル産卵調査に行きました。

総勢 7 名だったので、井上さんは岡崎さんと、篠原さんはご夫妻で、植原さんと角田さん、加藤。車 3 台で行ってきました。途中寄り道をしながらまったりのんびり行きました。まず最初に立ち寄ったのは『山の神』と言われている場所です。よく見ると小さなかわいいヒナスミレがあちこちに落ち葉の中から顔を覗かせています。エイザンスミレもあちこちに咲いています。谷の方には、ユリワサビ、コガネネコノメ、ハナネコノメ、道路沿いには、キンキ (ヤマ) エンゴサク、ニリンソウ、などなど、これまたとってもかわいい小さなお花たちが咲き誇っていました。

次に立ち寄ったのは、カエル池と呼んでいる道路脇の水たまり。この卵たちは、すでに、おたまじゃくしにかえっていて、茶色の小さなヤマアカガエルのおたまじゃくしが元気よく泳いでいました。

次はカツラ・ポイント。斜面を降りるとここにも可愛らしいスマイレたちが咲き誇っています。

高原手前の焼山峠に立ち寄りました。ここでやっとヤマアカガエルの卵に会いました。時が経って水に溶けて（おたまじゃくしになろうとしている）何腹かわからない塊は、前回、植原さん確認済み。最近、産卵されたと思われる卵も2腹、合計十数腹ありました。ということは、十数匹のヤマアカガエルのメスがいるということですね。岡崎さんが産みだての卵に触り「ゆらゆらして（って言ってたかな）命を感じる」と大興奮！大感激！「そんなに言うのなら」と植原さんが確認に行ったので私も便乗し確認。子供の頃、カエルの卵をとってきたことを思い出しました。

高原に入って、A湿地（木道湿地）に行きました。ここでは残念ながら卵は1腹も見つかりませんでした。

やっとロッジに着きました。ロッジの外でみんなで愛睦まじく、美味しくお弁当を食べました。

午後からはB湿地（木橋湿地）からC湿地（梨高湿地）に行きました。水位が低く、少ない水たまりの中に何腹か産卵されていました。が、干上がる直前で残念ながらかえることがないと思われる卵がいくつもありました。

今回は去年よりもだいたい産卵数が少ないようです。原因は、冬、雪が少なかったせいで雪解け水がなく、水位も低く、水たまりが少なく産卵する場所も少なく、産卵しても、水たまりが干上がってしまい、生きることのできない卵が多いように思われます。

帰り道、フモトスマイレを見に自然観察路入り口に行きました。ここにも沢山の可愛らしい小さなスマイレたちが咲き誇っています。遠くのスマイレを見つけて、足元も見ないで近寄ると「あ！踏んじやった！」でも大丈夫。厚い落ち葉のクッションのお陰で、折れることなく、元気に生きています。

時間も4時をまわり、林道を降りたところで解散。ここで篠原さんご夫妻は御用があり帰路に。後の5名は立石神社に立ち寄ったけど、お目当ての花は見当たらず・・・でしたが、境内を散策しました。

【追記（植原 彰）】複数人で自然観察すると、「各自で観ているモノ・コトが違う」ことがあります。先を行く人、後からゆっくり来る人、寄り道する人・・・十人十色の歩き方・観方があるので当然です。また、人によって一番印象に残っていることは違います。これも十人十色。だから、一回の自然観察交流会のレポートを一人ではなく多くの人で書くのがいいと思います。自然観察は一人一人で行うことですが、それを分け合えば、何人分もの自然観察が「体験」できるからです。お金は分ければ減りますが、自然観察は分けると増えるんです。

さて、この日、森のコースで井上さんと植原はおもしろい光景を見ました。やぶの中にエナガという小鳥が入って行き、なかなか出てきません。いつもなら、えさを探して少しずつ移動するはずなのに。ブラタモリみたいに「？」マークを頭の上に付けながら、しばらくじっと見ていました。やぶから出てきました。くちばしに鳥の羽根をくわえているではありませんか。もう少し、そっと見ていたら、あっ、今、羽根の形と模様ははっきり分かりました。ヤマドリに違いありません。こういう時のために、30年以上も「鳥の羽根一枚だけで何の鳥か分かるよう」訓練してきました。もうしばらく見ていたら、もう一羽来て、そいつもやぶの中に入って行き、羽根をくわえたら、2羽仲良く東の方に飛び去りました。

井上さんが「やぶの中に羽根が散乱しているかもしれないね」というので、エナガの邪魔をしないか心配でしたが、一緒に行ってみました。そしたら、やぶの中にヤマドリの羽毛がいっぱい。どれもふわふわです。「これがガン（ゲース）だったら、ダウンだね」などと話ながら、羽毛の観察をしました。鳥の羽根の中央には羽軸と呼ばれる太い筋がありますが、それが途中で切れていました。「殺人者」が鳥（猛禽）ならピンセットのようなくちばしで「被害者」を料理するので、羽軸はきれいに残っています。一方、獣の場合、歯で「噛む」ので、羽軸は途中で切れてしまいます。しかも、やぶは地面すれすれで、これでは猛禽は入って来られません。ということで、被害者はヤマドリ、殺人者は獣（テン？ キツネ？）と推理しました。

井上さんから「エナガは落ちている羽毛を全部きれいに持って行くそうですよ」という情報をいただいたので、翌4/21に確かめましたが、確かに、やぶの中にあんなにいっぱいあった羽毛は跡形もなく無くな



ヤマアカガエルのおたまじゃくし



フモトスマイレ



散乱したヤマドリの羽根

っていました。

エナガは、巣の外装はコケなどをクモの糸やガの糸でからめて卵型に作り、内装は羽毛を敷き詰め、ダウンでできた寝袋のような巣を作るのですが、その材料集めをしていたのですね。

訪花昆虫調査

～2025 年度 1 回目～

5 月 21 日 (水) 記事：植原 彰

予定した 5/17(土)が雨予報だったので、5 月 21 日(水)に行いました。平日ではありますが、高槻先生、加藤さん、井上さん、岡崎さん、植原の 5 人が参加。

高槻先生から調査方法の説明後、分担して遊歩道を歩き、花に来ていた昆虫すべてを記録しました。といっても、この日に草原に咲いていた花は 10 種類もなかったし、花数も少なかったので、調査はサクサク進みました。昆虫が来ていた花はほぼ全部ミツバツチグリとキジムシロ。二つとも黄色い花です。少数派としてセイヨウタンポポ、モミジイチゴ、シロバナエンレイソウ。来ていた昆虫はハチ、アブ、ハエ、小さな甲虫(ハムシの仲間やモモブトカミキリモドキ)でした。

調査を済ませ、少し遅いお昼をみんなで食べました。この時期が乙女高原のわらびシーズンです。ちょうど植原が昨日採ったわらびがあったので持参しました。醤油とかつお節も持参し、かけて、みんなに食べてもらいました。自分と言うのもなんですが、あくの抜き加減といい、湯がき加減といい、最高に美味なわらびでした。



ミツバツチグリとアブ

～2025 年度 2 回目～

6 月 12 日 (水) 記事：榎田 幹夫

2025 年度 2 回目の「訪花昆虫調査」を、6/12 に、高槻先生と乙女高原ファンクラブのメンバー 5 名で実施しました。当初予定した 6/11 (水) は雨のため 6/12 (木) に延期したものです。

今回の調査は高槻先生の発案で、従来の「花と昆虫数」調査から一步進めて「花と昆虫とその行動」を調査するものです。マルハナバチの「待ち伏せ調査」と同じように、ある花に来た昆虫の種類と行動(吸蜜、食花粉、その他)を 5 分間、双眼鏡で観察し記録する調査です。

エゾハルゼミとカッコウの大合唱に迎えられてグリーンロッジに到着しました。集合迄に時間があつたので、谷地坊主とクリンソウを見に行きました。谷地坊主は緑色の髪の毛を伸ばし、白髭をはやした爺やのような姿。クリンソウは 10 株以上花茎を伸ばし、濃いピンク色の花を咲かせ、近くで見るとサクラソウの女王様のような姿です。駐車場わきの小道にはオオミズアオが羽を広げていました。

11 時前に高槻先生が到着し調査前の打合せです。参加者は植原さん、角田さん、時田さん、渡辺さん、榎田の 6 名。高槻先生から調査方法についての説明がありました。これまでの調査で昆虫数の回復は確認できたが、花の作り(筒型、皿型)と訪れる昆虫の口吻の形が対応しない事例があるので、吸蜜か花粉を食べているのかの行動を記録する調査を行うことにしたとのことです。

その後、草原に入って、咲いている花と訪れる昆虫の行動確認をしました。咲いている花は皿型のキンポウゲ、オオヤマフスマ、筒形(壺形)のアマドコロ、半開きのレンゲツツジです。担当する花の種類を決めて調査開始です。日差しが無かったので昆虫の動きは鈍く、キンポウゲでは 5 分間観察しても同じ虫が止まっていて虫の入れ替わりがありません。双眼鏡で観ると甲虫がオシベの先の花粉を食べたり、頭をオシベの隙間に突っ込んで蜜を吸っているような行動をしています。他のキンポウゲの花でも同じようでした。昆虫の入れ替わりを期待して、咲き始めたアヤメとアマドコロをそれぞれ 5 分間観察しましたが、訪れる昆虫はゼロでした。



キンポウゲに甲虫

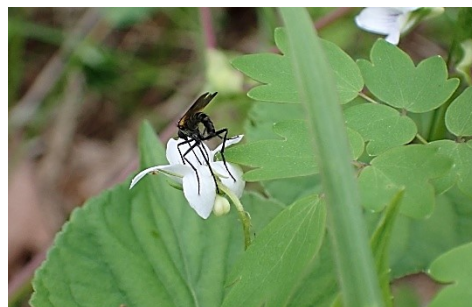
1 時間ほど調査し、12 時半に終了。ロッジ前のテーブルで昼食です。朝から賑やかに鳴いていたエゾハルゼミが静かになり、カッコウの声を聴きながら高原ランチです。植原さんからシフォンケーキ、角田さんからはフキの炒め物とサクランボ、その他カットした果物(これ、槇田さんからです。植原注)がデザートです。ご馳走様でした。

午後も1 時間ほど調査しました。午前中に会えなかったマルハナバチを探してツツジのコースに行きました。高槻先生は今は花盛りのマイヅルソウにどんな昆虫が来るか、残りのメンバーもそれぞれ対象を決めて調査しました。

レンゲツツジの花にマルハナバチが1 頭飛んできました。黒い体で足に黄色い花粉団子がついています。コマルハナバチです。カメラを用意している間に飛んで行ってしまいました。花が咲いていない植物にアサギマダラが止まっています。双眼鏡で見るとヨツバヒヨドリで、てっぺんに蕾らしきものがあり、その蜜を吸っているように見えます。

14 時半で調査終了しました。午後は午前中に比べて昆虫の数が少なかったですが、マルハナバチとアサギマダラに出会うことができ、ラッキーでした。

終わりの会を行い、調査記録表の改善(その他の項目追加)や同じ花を双眼鏡で5 分間観察するのは大変などの意見が出ました。今回の記録表は高槻先生が持ち帰り、集計・解析され、調査方法の改良に繋がります。帰り道、塩平で正面に見えた「雲の上まで顔出した雪のない富士山」が印象的でした。



エゾノタチツボスミレにハエ

第Ⅵ期 乙女高原案内人養成講座

～ 初日 万力公園で講座がスタート ～

5 月 25 日(日) 記事：植原 彰

少し早めに会場である山梨市民会館に着き、玄関前で開館を待っていました。今日は大ホールを使った180 人が集まる催しがあるというし、日曜日で万力公園に人出があるだろうし、戦々恐々でした。最も困りそうなのは駐車場でしたが、ふたを開けてみるとそんなでもなかったのほっとしました。

第Ⅵ期養成講座の受講生は16 人。講座のお手伝いをしてくださるスタッフは15 人。この中に昨年度の修了生が9 人もいます。後輩受講者の面倒を見たい、自分も後輩受講者と一緒にもう一度講師の話を聴きたいという意欲のある方ばかりです。朝、借りていた302 会議室でスタッフ打ち合わせをし、準備をし、受講生を受け入れました。とてもスムーズに進み、予定より若干早い時刻に開講式が始められました。開講式では角田代表世話人のあいさつに続いて、スタッフ全員の自己紹介。終了後、オリエンテーション。スケジュールや注意事項などを共有しました。

開講式が終わったら、いきなり外に出て野外実習です。雨を覚悟していましたが、早朝のザーザー降りが上っていてよかったです。野外実習「インタープリテーション体験」講師は植原です。前回は、会館前のちどり湖畔で、風景を見てクイズを作る実習や、生垣の中に生えてきた木の赤ちゃんたちにインタビューしたらどんな答が返ってくるか考える実習などをしました。

今回は趣向を変えました。玄関前のコンクリートの上で少し説明してから歩き出し、万力公園の森の中に入りました。コンクリートの上で説明したのは、そこ森の中の様子を比べてもらいたかったからです。森に入って、しばらくしたら、「森の外と中とでは、何がどう違いましたか?」と質問し、はじから答えてもらいました。全員です。答えてもらいながら、植原の受け答えにも注目してもらいました。植原は、参加者からの言葉を「オウム返し」して、全員で共有したり、わからないことは質問したりしましたが、評価はしませんでした。お互いに感じたことを出し合ってもらい、「お金は分けると減るけれど、自然観察は分けると増える」ことを実感してもらいました。

次に、やるつもりはなかったのですが、あまりにも新鮮なモグ



ラ塚があったので、以前書いたモグラの絵(実物大)やモグラのトンネルの断面図(同)を見せながらモグラの説明を少ししました。

さて、「森の外と中のちがい」を出し合ってもらったのには、裏の意図がありました。この場に長く留まれば、絶対に「あの音」が気になるはず。それを狙いました。こちらの思惑通り、受講者から、「あの『声』はなんですか」と質問がありました。少し話し合った後、「あれはアオサギという鳥の声です」「もし、抱きかかえたら、どれくらいの大きさになると思いますか?」と、鳥を抱えるジェスチャーをしてもらいました。アオサギの写真を見せながら、話をしました。

最後に、二人一組になって、遊歩道を歩きながら、気になるもの・気に入ったものを一つ決めて、そこに荷札を付けるというゲームをしました。みんな、見つけるのを楽しんでいるようで、なかなか進みません。時間がなくなり、「見つけたものをみんなで分かち合う」ことはできませんでした。

部屋に帰り、少し休憩したら講義「インタープリテーション」。講師は植原です。お気づきになりましたか? ここまでa運営といいb司会進行といいc野外実習講師といいd講義講師といい、全部、植原がやっています。a～dの全てに綿密で膨大な準備が必要でした。しかも、当日は「これをやりながら、あれとそれを考えて、次の準備をして、さらに…」と頭の中が目まぐるしすぎてクラクラしました。それを顔には出さず余裕な顔して講師をするのがイキというもの。長い人生の中でも、こんなに忙しくて、こんなに充実した日はなかったと思います。講義の中身については、いづれどこかで公開できればと思います。

ここでお昼。講師とスタッフにはオーチャードカフェさん(街の駅やまなしに入っている)の美味しいお弁当を用意しました。午後は、伏見さんの「自然の保護」、三枝さんの「乙女高原の歴史」という2本の講義でした。

伏見さんからは自然を守る意義や自然の守り方のいろいろについて、また、生物多様性の概念と、その危機、そしてその保全の方策について、乙女高原の活動にリンクしながら、お話していただきました。山梨県の生物多様性地域戦略についても詳しく触れていただきました。皆さんも山梨県が生物多様性保全に対してどんな姿勢で、どんな取り組みをしているのか、知っておいたほうがいいと思います。

三枝さんはこの日のために、乙女高原に関わって来られた多くの人から話を聞き、8ページの資料を作ってくださいました。それを読み上げながらの講義で、心に響くものでした。この資料、多くの方に活用していただかないともったいないと思います。

今日のプログラムが全て終了し、諸連絡・質疑応答をして解散しました。受講生の皆さん、スタッフの皆さん、そして、講師の皆さん、次はいよいよ乙女高原です。



山梨県生物多様性地域戦略

～ 2 日目 乙女高原でフィールド実習 ～

6月8日(日) 記事: 植原 彰

講師は北垣さん(都留文科大学教授・動物)、時田さん(NACS-J 自然観察指導員講習会講師・地形地質)、鈴木さん(乙女高原ファンクラブ世話人/案内人、乙女高原の活動紹介)の3人。さらに、次回講師である小松澤さんも下見を兼ねて参加してくださいました。また、この事業に助成いただいているハウジングアンドコミュニティ財団の久田見さんも視察に来てくださいました。スタッフは13名。受講者は15名(1人都合により欠席)でした。

乙女高原グリーンロッジ



の庭でオリエンテーションを行い、さっそく2班に分かれて、それぞれの講師を先頭に、「動物」と「地形・地質」の実習に出発しました。私は本部で待機していたのですが、それぞれの班から笑い声が聞こえてきて、楽しく実習が進んでいることが分かりました。

野外実習が終わったら、40秒の持ち時間で、お一人お一人に自己紹介をしていただきました。お昼をはさんで、午後は班を交代して野外実習です。実習後、鈴木さんから「乙女高原の活動紹介」を聞いて、本日の実習を終了しました。

時田さんからのプレゼント『乙女高原の成り立ち 紙芝居(改)』をカラーコピーし、裏にセリフを貼り付けてラミネートしたものをロッジ『乙女高原の本棚』に加えておきますので、自由にご覧ください。

＝受講生の感想(アンケートの自由記述)を紹介します＝

- ◆地形・地質・歴史・植生・生き物・お花・鳥の声・景観すべてに感動の連続の1日でした。
乙女高原の魅力に取りつかれ、守り伝える活動のお手伝いがしたくなりました。
- ◆地形地質について深く理解できた。
- ◆乙女高原の動物は、とても興味深い講義内容で、もう1コマ程度あってもよいと思った。
乙女高原の地形地質は、時田さんの準備内容が素晴らしく、分かりやすく、理解が深まった。
- ◆専門的な内容もふまえての実習で、楽しく学べました。次回もよろしくお願いします。
- ◆とても楽しい講義を受けられました。
- ◆皆さん、話しやすく、楽しくすごすことができました。3日目もよろしくお願いします。
- ◆フィールドワークは具体的で、楽しく学ぶことができました。
- ◆ABに分かれてチームで行動したことで、また自己紹介したことで受講者間の交流が始まったと思います。
残り1日、有意義に受講に挑みたいと思います。
- ◆調査活動に参加したいと思うのですが、平日は仕事の都合で参加できないのが残念です(学校案内も同様です)。モグラは実際にさわったのは初めてでした。今日一番の体験でした。
- ◆乙女高原の動物という野外実習で、また野生動物についての知識を楽しく学ぶことができました。
またこのようなイベントがあれば参加したいです。
- ◆今日は動物、地質と、まったく私にない視点での乙女高原へのアプローチで、大変おもしろく、気づきがたくさんあったし、楽しかった。「動物」大変広範囲で、木の実の食べ方から動物の特性や行動を考えていくとはびっくり。そして、考えながら、他メンバーの様々な視点や考え方を知ることにも又すごく学びがありました。「地質」割合好きな岩石の話から土の話。尾根道の構造や、ふと見る足元の石(?)。なかなか忘れがちな靴の下。地面というものがドンと足踏みして感じる楽しいセミナーでした。どちらもとても楽しかったです。ありがとうございました。

【観察報告】

不在の充足

4月19日(土) 記事：宇津 貴史

気になって気になって、気になっているより動いてしまおう。だからいつもフライングしてしまう。ヒメギフチョウには早いとわかっていた。カラマツの若葉がきれいな頃、乙女高原には少ないながらヒメギフチョウが舞う。

乙女湖から展望台の階段を上がり林道を歩いたが、アブラチャンもダンコウバイも咲いていなかった。傍のスミレひとつ咲いていなかった。柳の花は黄色く見える。歩いていると、鳥が騒いだのだろう、柳の枝が落ちていた。拾って、ビロードの感触をしばらく撫でた。

高原内にはたくさんのキタテハが翔んでいた。写真を撮ろうか迷ったが、ただ見ていた。高槻先生が言っていた、独り占めできる時間こそが贅沢じゃないですか。その通りだ。

秋に誰かが刈ってくれたんだなあ。ロープを外してくれたんだなあ。空は青く、追いかけてあっているキタテハは楽しそうだなあ。キジムシロの小さな葉が枯れたススキの下に生えていた。春は始まっている。

でも、スギタニルリシジミやミヤマセセリ、コツバメはまだいない。春のチョウが出てくるまでにはあと一週間くらいかかるだろうか。

帰り道、四季の広場を通り過ぎたとき、キベリタテハが悠々と横切った。目で追うとシラカバの幹に止まり、湧き始めた樹液に翅を広げては閉じていた。写真を撮りたいな。でもちょっと高い位置だな。今日は何も撮らなくていい。

4/12、信玄さんのお祭りを知らせる恵林寺の花火の音を遠くに聞きながら、乙ケ妻のシダレザクラが満開なのを横目に見ながら、乙女に向かいました。この時期、いろいろなところに寄り道しながら行くのが楽しみです。車を止めるたびに、いろいろな鳥の声が聞こえます。ミソサザイ、コゲラ、ウグイス、ゴジュウカラ、ヒガラ、コガラ、シジュウカラ…。いつ頃から夏鳥の声が聞けるのでしょうか。

今年は春が遅いのか、結局、帰りにまでにスミレ類の花を一つも見ることができませんでした。

さて、カツラの木ポイントです。ヤマエンゴサクもニリンソウもまだ咲いていません。ハナネコノメとツルネコノメが咲いていて、ハシリドコロはようやく開花したばかり。

図鑑だとハシリドコロの花は下向きに咲くということになっていますが、春一番最初にその株が付けた花だけは上向きなのを知っていますか？ 春一番の頃はまだまだ訪花昆虫が多くないので、少ない虫たちにできるだけ来てもらえるよう、花の中に入る難易度が高い下向きではなく上向きに咲くのではないかと睨んでいます。昨日までの雨が花の中にたまっていて、きれいなティーカップに入れたミネラルウォーターのようでした。



ハシリドコロの開花

ハシリドコロには小さな蜂がたくさん来て、盛んに飛び回っていました。10頭以上いたと思います。そっと見てみると、時々、花の中に入っていきますが、花を目当てに集まって、ワイワイやっているようには見えません。もしかしたら、婚活のために集まっているのではないかと思いました。家に帰ってから図鑑で調べましたが、似ているのがたくさんいすぎて、よくわかりません。一番それらしいのはカオジロヒメハナバチでした。顔に灰白色のヒゲがたくさん生えています。アゴも大きくて、カッコイイです。

ハシリドコロから離れようとしたら、ハシリドコロの葉に穴が開いているのに気が付きました。虫の仕業にちがいありません。え、スミレもまだ咲いていない、こんな春早くに出てくる虫(たぶんイモムシ)なんているの？ しかも、ハシリドコロは猛毒だし。探しましたが、ハシリドコロの葉に穴を開けた犯人は見つかりませんでした。

ようやく腰を上げたら、近くに、落ち葉を突き破って出て来て、そのまま落ち葉を持ちあげてしまったハシリドコロの芽を発見。そのパワーを称えて写真を撮ってあげました。

ハシリドコロだけでこんなに時間をとってしまいました。とても幸福な自然観察タイムです。

今日は湿地でヤマアカガエルの卵を探しました。A湿地は0。B湿地は1腹ありましたが、なんだかすぐに干上がってしまいような水たまりに産んであります。C湿地は例年一番遅く産卵が見られるのですが、今年は今日、3腹が見られました。Bと並んで乙女エリア最早です。それにしても、湿地の水が少なく感じました。これまで、深かった水たまりに泥や落ち葉が溜まって浅くなることはよくありました。でも、その分、今度は別の場所に深い水たまりができ、湿地全体としてはバランスが取れていたような気がします。ところが、今年は全体的に水が少なく、どの水たまりも少し時間が経てば干上がりそうです。全体的に水が少ないので、水が地面を削り、流れる沢の水面が低くなり、ますます水たまりの水が沢に抜けてしまっているように感じます。今年の冬は本当に雪が少なかったですが(春になって降りましたが…)、その影響でしょうか。おたまじゃくしが大きくなるまで水たまりの水は大丈夫かと心配になりました。

ロッジの庭でお昼を食べましたが、寒くてダウンジャケットを羽織りました。念のために持ってきてよかったです。草原でウグイスの声を初めて聞きました。

午後は草原の中を歩きましたが、キジムシロもミツバツチグリもフデリンドウもまだまだ出て来ただけで、蕾も見えません。

メタリックな青色の、アリを巨大にしたようなヒメツチハンミョウが地面を歩いていました。この虫は、早春と晩秋にしか会えません。全部でメス3頭、オス1頭を見かけました。触角がすーっとしていたらメス、途中にコブがあったらオスです。ちなみに毒を持っているので、触らないほうがよさそうです。でも、じっと見るのは大丈夫です。



ヒメツチハンミョウ

固かったツノハシバミの雄花の花穂がいよいよ伸びて、ブラブラしていました。よーし!と思って、はじから指でたたいてみました。ポッと黄色い煙が出てきました。花粉です。そして、よーく探すと雄花の付

いている枝の一番先の冬芽の中から真っ赤なモジャモジャが見つかることがあります。拡大して見ると、触手の数が少ないウメボシソギンチャクのように見えなくもありません。これがツノハシバミの雌花(柱頭)です。おもしろいことに、同じ風媒花であるオニグルミも雄花は下に垂れて伸び、ブラブラします。雌花は柱頭だけで、あまり目立たず、でもしっかり真っ赤です。



ツノハシバミの雌花(右上)と雄花

びっくりするのはシカ柵の中と外の色の違い。シカ柵の外はササ(ミヤコザサ)が食い尽くされてしまい、全体的に「枯れた芝生」のような景観です。ところが、ササはもともと常緑の植物。柵の中はササの葉が残っていますから、青々としています。シカの食圧が一目瞭然です。

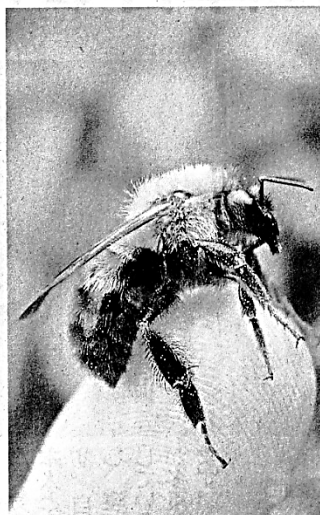
帰りに焼山峠の湿地に寄りました。まだ雪が残っていましたが、雪が水面の上にアーチを作り、雪と水面の間に大きな空間ができていたのがおもしろかったです。ここでもヤマアカガエルの卵が全体で5腹見つかりました。そのうちの二つは産みたてほやほや。ゼラチン質の部分が十分に水を吸ってふくらんでいませんでした。手ですくってみると、水が十分な下のほうは膨らんでプニプニしていますが、上のほうはゼラチン質の部分が小さく、固いように感じました。

乙女高原 マルハナバチ「調べ隊」

ボランティアで23年目 草原の健康診断

調査員を募集中

2025.6.12.朝日山梨



指にとまるトラマルハナバチ=いづれも乙女高原ファンクラブ提供



ミヤママルハナバチ



一番大きなオオマルハナバチ

温厚な性格であり人々を刺さず、毛に覆われた、もふもふの姿も愛らしいマルハナバチ。山梨市牧丘町の乙女高原(標高約1700m)を舞台とする「マルハナバチ調べ隊」のボランティア調査員を、「乙女高原ファンクラブ」が募っている。調査は6月20日、8月2日、9月6日の計3回で、経験がなくても申し込める。

「調べ隊」による調査は今年で23年目。乙女高原のマルハナバチはこれまでに6種類が確認されており、昨年の調査では主に3種類がみられた。れんが色の胸の毛と力強い羽音が特徴のトラマルハナバチ(愛称トラうちやん)、全身がレモン色で胸だけ黄みが強いミヤママルハナバチ(ミーちゃん)と、6種類の中で一番大きく、お尻がカラフルなしま模様のおオオマルハナバチ(オーちゃん)。「毎年、同じ時期、同じ時間帯に同じ方

法で調査することで分かることは多い」と、乙女高原ファンクラブ代表世話人の植原彰さん(63)は話す。ハチの愛称は、調査時に呼びやすいようにと自ら考えた。

ファンクラブは、2001年に発足したボランティア団体。約60の草原が広がる乙女高原は、200種類以上の植物が生育するなど豊かな自然を誇るが、半世紀近く続いたスキー場が00年に閉鎖され、手入れをする人がいなくなった。そこで、地元で生まれ育った植原さんら有志が集まって、草原の自然を守り育てる活動を始めた。

草刈りや遊歩道づくりなどの環境整備に取り組み、力を注ぐのが、03年に始めたマルハナバチの調査だ。春以降、次々と咲く花々によって来るハチたちは、蜜を吸ったり花粉を集めたり、様々な動きをみせる。「マルハナバチは、天気の良い日はほほ休むことなく働き、生態系の中での役割がわかりやすい。その数や行動は草原の健康度を示すバロメーター。『調べ隊』による毎年の調査は、乙女高原の健康診断の意味

を持ちます」と植原さん。14年の調査では、マルハナバチの数が例年より明らかに少なかった。シカが花芽などを食べる害が原因らしいと分かり、市にシカ防護柵の設置を要望。翌年、草原をぐるりと囲む長さ約1km、高さ2.3mの鉄柵が完成した。以降、柵内の花は増え、ハチたちも戻ってきたという。

調査の時間帯は、各日とも午前10時〜午後2時半。午前中は、マルハナバチの種類などの基本を学んだ後、草原内の所定のルートを約1時間歩き、どんな花にどのハチがきて何をしているかを調べる「ラインセンサス調査」を行う。午後は「待ち伏せ調査」。それぞれの調査員が、花の種類を絞っての15分間の定点観測を2回ずつ行い、訪れるハチの数や行動を記録する。調査後、それぞれのデータを集計し、分析を行う。

募集人員は20人で、参加無料。小学4年生以上が対象だが、3年生以下でも保護者と一緒に参加できる。詳細はファンクラブのホームページ(<https://fruits.jp/otomec/>)と案内している。問い合わせは植原さん(090・7246・8625)へ。杉山圭

TOPICS

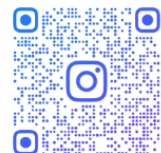
◆町の駅やまなし常設展示

JR 中央線・山梨市駅北口にある「街の駅やまなし」のスペースをお借りして、乙女高原展を開催しています。掲示板 1 枚と長机 1 脚だけのミニミニ展ですが、毎回テーマを決めて 1~2 か月程度で展示替えしてきました。ただいまシーズン 49「乙女高原の蝶展」を開催中です。山梨市駅近くにおいでの際は、覗いてみてください。



◆Instagramを開設しました

「若い人たちの参加を増やすにはどうすればいいんだろう？」
「今時の情報源は SNS じゃないかしら・・・」
こんな世話人会での雑談から、Instagramを開設してみました。
気軽に閲覧してください！ 写真の提供もお待ちしています m(__)m



@OTOMEKOGEN.FC

◆夏の活動予定

●ボランティア作業 ～遊歩道の草刈り～ぜひ

夏休み前に遊歩道の草刈りをして、歩きやすくするボランティア作業です。

日 時：7 月 19 日（土）9：00～12：00

集 合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：水分、帽子

※刈り払い機持参の方には燃料代を助成します。

※手刈りの方にはカマをお貸しします。



●乙女高原のチョウ観察研修会

乙女高原に生息し、この時期に見られるチョウを乙女高原案内人：宇津さんの案内で観察。
どんなチョウが見られるか楽しみです。

日 時：7 月 20 日（日）10：00～12：00

集 合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：水分、帽子、筆記用具、雨具、できればカメラ



●第 23 期マルハナバチ調べ隊

マルハナバチの動向を知ることは乙女高原の健康診断。未来の乙女高原のための活動です。

～盛夏編（自然観察交流会）～

日 時：8 月 2 日（土）10：00～14：30

集 合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：弁当・水筒・筆記用具・雨具

腕時計やタイマーなど時間がわかるもの



～初秋編～

日 時：9 月 6 日（土）10：00～14：30 頃

*場所・持ち物などは盛夏編と同じです



●乙女高原 夏の案内活動

毎年恒例になった乙女高原案内活動。花盛りの乙女高原でみなさんとお会いすることを楽しみにしています。10 時から 15 時ころまで、ロッジ前のベンチでお待ちしています。

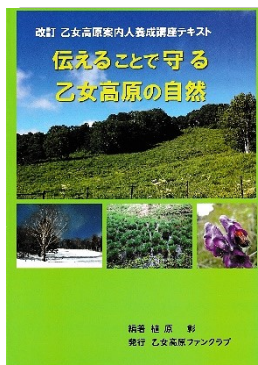
また、乙女高原案内人でこの活動に賛同してくださる方は、ご協力をお願いします。1 日だけ、半日だけでも結構です。可能な方は、事務局までご一報ください。

夏の案内人活動日

- ① 7 月 19 日（土）
- ② 7 月 20 日（日）
- ③ 7 月 26 日（土）
- ④ 7 月 27 日（日）
- ⑤ 8 月 2 日（土）
- ⑥ 8 月 3 日（日）

●今号は編集を鈴木辰三、校正を井上敬子さん・植原 彰さんが行いました。その後、芳賀月子さん・三枝かめよさんの印刷、廣瀬晴美さんの発送作業を経て、約330通が皆様のもとに届けられる予定です。なお、廣瀬さんは「初仕事」です。廣瀬さん、ありがとうございます！8月からは新しい案内人の活躍も始まります。みなさん、ご期待ください。

乙女高原ファンクラブの刊行物



乙女高原案内人養成講座のテキスト

『伝えることで守る 乙女高原の自然』

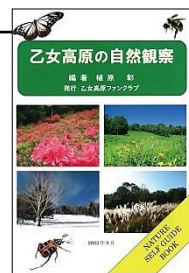
(A4判 270頁 2024年)モノクロ。2006年テキストの増補改訂版。頒価 1,500円。送料は1~2冊430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原を歩く際のお供に『乙女高原の自然観察』

(A5判 30頁 2023年)オールカラー。1ページに1テーマ。頒価 300円。送料は1冊:180円、2~8冊:270円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁 2013年)乙女高原メールマガジン11年間の中身を編集した厚さ3cmの本。一部カラー。頒価 2,000円。送料は1・2冊なら430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。



乙女高原フィールドガイド シリーズ

…欲しい方は事務局までご連絡ください



フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに

『乙女高原のスマイル・ウォッチング』

→在庫切れ

フィールドガイドⅡ

マルハナバチ観察と調査のおともに

『マルハナバチ ウォッチング 改訂新版』

フィールドガイドⅠ

春から夏にかけて咲く草花のガイド

『乙女高原のお花たち 第三版』

いずれもA3判。両面カラー。折りたたみ済み。ポケットに入れられるサイズになっています。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という言葉があります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには…

「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

今号は普通会员のみにお送りしています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL 090-7246-8625 FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <https://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込●番号：00220-8-71093 加入者名：乙女高原ファンクラブ

●ゆうちょ銀行●店名：029店「当座預金」番号：0071093 加入者名：乙女高原ファンクラブ



ホームページ



フィールドノート
旧観察ブログ



アーカイブ
旧活動ブログ



乙女高原後援会
フェイスブックグループ



Instagram